

【会議要旨】学校再編（統合）に関する説明会（6/25）

1 日時	令和3年6月25日（金） 18時30分～20時20分
2 場所	町民センター 大ホール
3 出席者	53名（保護者等22名、学校7名、その他17名、町教委9名）

【教育長あいさつ】

- ・本来であれば5月25日開催予定だった。緊急事態宣言を受けて本日へ延期した。
- ・6月議会において、学校建設の各種契約について承認いただいた。
- ・現在、学校開校に向けた準備委員会等3つの会を設置している。
- ・新聞記事を一つの契機として混乱が生じたため、しっかりと事実を説明させていただきたい。
- ・5月13日と14日に道新と苫民の記事内容の差。「一転」と「舵を切った」の言葉の差からみて明らかに認識（捉え方と住民/報道間の立ち位置・スタンス）が異なる。道新の一転については、相当前の段階の「事実」である。よって、報道時点での事実ではないものである。
- ・22日、27日の政策提言発出者等と有志団体代表者との不一致に違和感
- ・2日、4日の民報見出しについて、賛成派の意見を求めなかったことから当然の結果と考えている。
- ・6月19日の道新記事に対して、最も多く説明時間を割く予定
 - 昨年10月15日に参加しているのに、「聞いていないので驚いた」というのは明らかな事実誤認報道である。保護者等関係者向け資料も大量に作成し配布することを一例に、欠席者への配慮を行っている。
 - 報道を受け教育委員とは即日電話連絡等のうえ、議会答弁等を意見調整している。（本日の説明は、教育委員会総意である旨）
- ・6月21日開催の町定例議会一般質問では、明らかな事実誤認があり答弁の中で訂正させていただいた。

教育委員会より、主に「学校再編について」の説明

以下、質疑内容 【凡例 ～ ○：質問（参加者） ●：回答（教育委員会）】

- ：教育委員会としては、最初から選択制を念頭に置いていたと思う。じっくり時間をかけて検討した。でも、最終的に義務教育学校へ統合しようとなった。この期間、令和2年10月15日までの間全く知らなかったとはならない。一方で、最初から義務教育学校として統合としなければならない結末は見えていたはずなのに、無駄な時間をかけすぎたのではないか？
- ：時間がたったのは事実。令和元年12月に実施した選択制のアンケートを行うまでは、そこまで新しい学校を希望する声が多いとは想定していなかった。これにより、安平小も遠浅小も事実上閉校する規模になるという事実が判明した。拙速な判断とこれまで指摘されていた経緯もあるため、その間じっくりと説明を続けてきた。

- ：PTAの方たちに最初から廃校にしますとハッキリとわかりやすく言ってもらえればよかった。一方で、たった一言で閉校ということにもならない。また、お金の話しでもない。PTA側から保護者等へ言ってくれることを期待していたとしか感じられない。新聞にすっぱ抜かれたからとかいう問題ではない。
- ：多くの保護者の方々に参加してもらえればよかったと思っている。PTA等からの要望があれば説明する用意を持っていた。反対の動きは、逆にもっと早く取れたのではないかと考える。PTAには、しっかりと丁寧に廃校について説明していく。富岡小の閉校式のようにしっかりとした節目を迎えられるよう準備していきたい。
- ：私は有志団体の代表者です。令和2年10月15日に参加したがそのことを失念していたため、あのような報道となった。もっと教育委員会からアクションがあるべきと思っていた。保護者側で配布してくれ、会議をしてくれと丸投げされていた感覚がある。
- ：3月の議会で初めて知ったという議員もいる。地域の保護者に丸投げしていると思えない。そんなやり方が正しいのか。
- ：選択制という頭でいたから、切り替えられない。義務教育学校のメリットだけクローズアップさせるが、デメリットもある。特に遠浅小は小さいからこそ不登校、いじめもなかった。義務教育学校になってもそれが維持できるか疑問。選択制から統合に移行するタイミングにもっと選択の余地があるのでは？なぜ時期を遅らせれないのか？説明にあるコストや学力の差異などは、保護者にとってどうでもいい。
- ：学力の差異を理由にはしていない。教育環境の差異を防ぎたいと考えている。
- ：新しい学校をつくる会から関わっている人間です。確かにある日突然閉校となることは、一気に話が変わるわけだから、突然と感ずるのは当然。私は、自分の子どものことを考えて早く統合してもらいたいと思ってきた。はやきた子ども園を卒業すると小学校がバラバラ、また中学校に戻るということが不自然。本来はやきた子ども園とする際に統合をセットで議論されても良かったほどである。これを問題視してこなかったのは、保護者のエゴであり保護者のこれまでの行動こそが問題であった。私たちは、安平小のために閉校式を一生懸命準備する。それは子どもたちのためである。子どもたちのことを考えれば、こども園の枠組みをそのまま中学校まで維持すべき。いじめはどの世代・場所でもあり得ること。それから守り抜くこと、子どもへその知恵と勇気を与えることが大人の責任。遠浅小PTAでしっかりと話し合ってもらいたい。安平小では議決を採ったわけではないが、義務教育学校に向けて大方理解してくれていると思っている。だから安平小は動かない（問題としない）。ここでいうべきでないかもしれないが、道新のやり方はいかがか？どういった手法でやったかは知らないが、面白おかしくではないかもしれないが、新聞社の立場でまたやり直すというのはいかがか。確かに教育長の言い方が悪いところがあるが、それは本質でない。今水掛け論をしても結論は出ない。今回は、統廃合に向けた話し合いのはず。遠浅は聞いてない、説明されてないというが、安平はそうではない。遠浅との折衝は別でやってほしい。
- ：いじめというワードが出た。教育とは、子供の成長の過程においてリスクを先に取り除くことが本質ではないと考えている。今回検討会と銘打っている。今月の遠浅での説明会が最後の説明会と銘打った。遠浅の説明会にて賛成する方、中立の方がいらっしゃったが、あとは地域で決めてくださいとするのは、感情的になるのでやらなかった。子どもへ反映されることも想定される。批判があるとしても、教育委員会で責任を持たないと地域に禍根を残す。そういったことは出来ないと考えている。
- ：今日来ている遠浅小保護者は、統廃合に反対してない。閉校を少し遅らせて欲しいという話をして

いる。安平の方にとっては決まっていることかもしれないが。あくまでも閉校が早すぎると言っているだけである。

- ：各学校のPTAで決めさせると分断を生む。今日は、かなり本音で議論できたのではないか。議論を続けるべきと考えるが、では今後どうやったらいいかと考えると、教育委員会がこれらを踏まえどう受け止めて方針を出すかだと思う。委員会の方針を明確にすべき。一方で、歩み寄るという思考が必要。それは、子どもたちのために必要なこと。必要なものは学び合える環境。
- ：今回まで十分受け止め方針を出したのが今日のものである。おっしゃった部分は、もう十分尽くしてきたことだと認識している。方針は、再編整備基本計画に基づいて話をしている。これが教育委員会の方針、総意である。
- ：5分程度休憩時間をいただき、教育委員会としての結論を出したい。

(休憩)

- ：教育委員会としての考え方を述べます。今日は、当初最後の検討会とする予定で6月30日の教育委員会で最終議決をするという考え方であった。早来地区及び安平地区におきましては異論なしとして承る。ただし、遠浅地区に限っては意見を聞く場を7月中に再度実施する。詳細に開催回数は述べないが、それを経て7月下旬の教育委員会で最終的に判断する。その場のなかで、公的な考え方がベースになる意見ではなく私的な意見が集中するようであれば、委員会としてのこれまでの判断をベースに進める場合があるので予めご承知いただきたい。

20:20 説明会終了